NIE実践報告

1．タイトル：世界の文化理解と何が本当で、何が大切なのか？

2．学校名

熊本県熊本市立一新小学校

3．実践者名（代表者名）

村上浩一

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳（自然愛護・他者理解・真実追求）　32人

6．単元（本時の学習課題）名

日本の調査捕鯨と豪の羊とカンガルー問題

7．目標(狙い)

・国が違えば文化が違うということを理解し、他者理解に応用できる。
・真実とは何か、見方が違うと摩擦問題になるということを理解する。

8．評価の視点

①新聞記事掲載の写真を見て意見を持つ一方で、情報を鵜呑みにしないことを理解できるか。
②多くの視点をもって、自然愛護、人間関係、真実追求等々を考えていくことができるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

①「ザ：クジラ」（1時間：自然愛護とは？　真実を見抜くとは？　他者理解へ！）
②「ザ：羊＆カンガルー」（1時間：見方を変える必要性　多くの視点をもって他者理解へ！）

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①クジラの髭でできた靴べらから、本時の学習課題を類推する。
②クジラのこと（ハクジラとヒゲクジラ、餌、等々）をパワーポイントで確認していく。
③「ミンククジラの母子」（熊本日日新聞08・02・07）の画像を見てわかったことを箇条書きにする。
④自分の意見を発表し、友達の意見と交換する。
⑤日本鯨類研究所のウェブを紹介し、「母子」ではないことを知り、シーシェパード等々の活動実態を動画で知り、感想を持つ。
⑥調査捕鯨、捕鯨の実態等々を知り、国が違えば文化が違うこと、友人関係も同じであり、実力行使ではなく、話し合いの大切さを理解する。（ここまで第1時）
①前の復習（真実の追求、情報を鵜呑みにしない、うわさに惑わされない、国が違えば文化が違う、学校が違えば文化が違う等々）をする。
②「捕鯨反対の豪　羊では防戦」（熊本日日新聞08・03・15）の新聞を読み、自分の考えを構築する。
③発表しあい、多くの見方を学んでいく。（第2時）

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

この記事を読んで、オーストラリアは自分の悪点をたなにあげ、他の国のことばかりを見ていると思う。（中略）これは、国どうしの大きな問題ではなく、私たちの身近なことにも関係があると思う。友達とケンカをしたときも、自分の主張だけでなく、自分は何が悪いのか、これからは考えようと思った。

12. 成果と課題

私自身、この「日本の捕鯨写真、公開、ミンククジラの母子　豪政府　提訴へ証拠得た」という記事を読んだとき、この情報を鵜呑みにしてしまった。ところが、日新丸の船長は体型の違いという主張をしている。何が真実かはわからないが、情報を鵜呑みにすることは危険であること、これはこれから中学校へ進学する卒業直前の子どもたちにかなり有意義な授業であったと考える。携帯電話の問題、友人関係等々の問題への対処の仕方であるとも感じたからである。
多くの見方、視点を持つことで摩擦は避けられることを紹介した新聞記事をこれからも集めていきたい。